



第7回 幼児教育実践学会 口頭発表
2016.8.19

遊び仲間の形成 と 協働的活動の深まり

熊本県 荒尾第一幼稚園

教諭 増永彩希 園長 宇梶達也

概要

戸外でのルールのある集団遊びは長い時間をかけて、遊びの対象が「先生」「気の合う友達」から「遊び仲間」と変わってきます。ルールを共有して遊びの楽しさで集まる子ども達を本園では「遊び仲間」と呼んでいます。

「遊び仲間」が形成されるまでには普段からの遊びを大切にしながら、協働的な活動も大切だと考えています。この協働的な活動やルールのある集団遊びでは社会性・問題解決能力・自律性が養われ、それは「遊び仲間」の形成にも必要な知性だと考えます。

本園では、普段の遊びの缶けりや鬼ごっこ、協働的な活動としての七夕を題材にした「人形劇映画作り」や全員協力して作る七段飾りのひな人形製作を通して「遊び仲間」が形成されるよう実践してきました。その年長組の実践をビデオで報告したいと思います。

ルールのある集団遊びの育ち

以下の文章は2012年度から2015年度のルールのある集団遊びの実践で本園が学んだことです。

【先生 VS 子ども達】

年少組の鬼ごっこは、一見、大勢で遊んでいるように見えますが、先生 VS 子ども達の構図で遊びが進みます。子ども同士で捕まえたりすることはまだ少し難しいですが、教師を中心に子ども達が集まり、みんなで遊ぶ楽しさを感じているように思います。徐々に子ども同士の鬼ごっこになっていきます。

【先生 VS 気の合う友達】

年中組の集団遊びは、先生 VS 気の合う友達の形が多く見られます。「鬼ごっこ」や「ケイドロ」をすると、仲の良い「気の合う友達」だけを追いかけてしまうこともあります。他の子にとって遊びが面白くなくなり、遊びが続かなくなることもあります。教師は、同じ子だけの遊びにならないように全体に目を配り、あまりタッチされていない子を追いかけたりするなど、遊び全体の難易度の調整をしたりします。また遊びがつまらなくなった経験を捉えて、子ども達に感じさせ、みんなで楽しく遊ぶためにどうしたらよいか考えたりします。

【遊び仲間の形成】

年長組2学期になると徐々に、気の合う友達だけでなく、ルールのある集団遊びの「遊びの楽しさ」が目的で集まる「遊び仲間」と遊ぶようになります。(室内のごっこ遊び等ではもっと早く遊び仲間の形成が見られるように思います)

遊びの中で当然のように様々な問題が起きます。このトラブルを教師は子ども達と一緒に考えながら「社会性を広げていく貴重な機会」としていきます。

教師は対等な遊び仲間のように遊びに入りますが、問題が起きた時、「遊び仲間形成の当初」は、話し合いの場を設定するなどします。子ども達の考えを引き出していく立場で発言の仲立ちをしたりします。月日を経て経験を重ねるごとに状況に応じてその関わりを少なくしていきます。

年長組後半になると問題が起きてても自分たちで解決しようとする力が育ってきます。それは「ルール」という目に見えないものをみんなで守る力が育ってきたからだと思います。誰とでも関わるようになり、ここでさらに社会性が養われていきます。

子ども達だけで遊びを進めていく力や話し合いの経験が子どもたちの育ちを促すことになると思われます。その力はより深い協働的活動につながっていくと思います。

【教師の関わり「選択的注意」の補完】

「気の合う友達」から「遊び仲間」へと育っていく時、様々な育ちが関わってくると思いますが、そのひとつに「選択的注意」の力の育ちが関係しているのではと思っています。認知心理学の用語で、カクテルパーティー効果とも呼ばれるそうで、賑やかなところで、となりの人の話に耳を傾ける力です。

ルールのある集団遊びは、話し合いや呼びかけが頻繁にあります。それを無視してしまうことがよくあります。でもそれは無視ではなく、それが自分に言われている言葉として聞こえていないような気がしています。この時の教師の関わりは「気づかせたり」「仲だ

ち」したりして援助していきますが、これがちょうど「選択的注意」の力を補っているかわりになります。

2015年度 年長組 集団遊び・協働的活動の実践記録

1学期

4/22【ねらい】

クラスの友達と触れ合いながら一緒に楽しく過ごす時間を持ち、つながりを感じられるようにする。

5/15 人形劇作り 預かり保育の二人

年長組数人で人形劇を作り始める。翌日、年中組・年少組に見せる計画が立てられる。

預かり保育で残ったR君とH君。二人で練習を行う。R君が自分のイメージをH君にどんどん伝えていく。イメージを伝えながらストーリーを展開していく。

5/25【子ども達の姿】

遊びの中で、集まった仲間が少なくルールのある集団遊びができないでいると、子ども達で仲間集めを進んですることが多くなってきている。

【ねらい】友達の中で自分なりの力が出せた喜び、友達と助け合えた嬉しさや自信を感じられるようにする。

【環境構成・教師の働きかけ】遊びの時間、多くの子ども達がルールのある遊びに参加しやすいように、クラスの活動で「じゃんけんケイドロ」取り入れた。

6/24【子ども達の姿】

ルールのある遊びに参加する子ども達が増えてきた。

6月下旬～7月初旬

《七夕会 人形劇作り》協同製作

《七夕会人形劇作りについて》

七夕会の活動は2週間の日をまたがる活動で、「共通の目的に向かって友達と一緒に取り組もうとする」ことをねらいとしました。少しずつルールのある遊びに参加する子どもが増えてきて特定の子だけではなくいろいろな子と関わることも増えてきた時期のように思います。昨年まではペープサートの劇を当日に演じていたのを、27年度から映画作りへと変え、劇作りの他に感性を育む活動として音探し音作りも取り入れました。絵本の場面場面に合う音を探したり、作ったりしながら映画を完成させていきます。



活動の最初、動くもの動かないものを話し合うとき、偶然近くに座っていた友達とたくさんアイディアを出しながら話し合っていました。この姿は、5月6月のルールの集団遊びの中でいろいろな子(遊び仲間)と遊んだ経験から生まれた姿と思えました。

ペープサート製作では個人個人が作りたいものをそれぞれが作っていきます。その中で「手伝うよ」などの姿は見られましたが、まだ話し合いや協力する姿はそれほど見られません。そこで音作りでは、みんなで考える場や作った音を発表する場を作り一緒に作り上げる経験や話し合う経験を意識して取り入れました。

「人形劇作り預かり保育の二人」のR君が、気の合う友達だけでなく、クラスの仲間に声

をかけて、人形劇の完成にむけて積極的に動く姿が見られました。この時の目立った進行役はR君でした。

2学期 ルールのある集団遊び

9月～10月初め【子ども達の姿】

遊びの時間は自分たちで人数を集めたり、鬼を決めたりしながらうまくいかない時も自分たちで「こうしたら？」などと話しながら進めている。

鬼決めやトラブルがあるとみんなで円になり話したり、決めたりしている。話し合いの時、中心になって話を進める人が出てきた。1つの遊びが長く続くようになっている。

【教師の援助】

- ・自分の考えや思いを伝えたり、相手の考えを聞いたりし、互いの思いに気づきながら話し合いが進められるように援助する。
- ・遊びながら子どもが気づいたことやトラブルなどを大切にして、遊びのルールを共通理解したり、遊び方を工夫したり考えたりする機会にしていく。
- ・一緒に遊んでいる友達の話聞いて話し合おうとしたり、自分の考えを相手にわかるように伝える姿を認め、自分たちで遊びを進めていく楽しさを感じられるようにする。

【子ども達の姿・変化】

1学期は教師に鬼をしたいことを言っていたので、教師が「じゃんけんして決めたら？」と伝えていたが、この時期は子ども同士で決めるようになっている。



【Y君の変化10/8】 缶けりに自分から入るようになってきた。鬼にならなければならない時は、嫌だと言って誰かに代わってもらっていたが、この日は自分から手を挙げ鬼になる。

【Y君の変化10/21】 缶けりの鬼になり、何度も蹴られて泣きそうになったY君。「缶けりやめる」と言う。缶けりに参加し始めたばかりで悲しい思いで終わらない方が良いと思い、教師はY君のそばにいることにした。「いっしょに鬼をしよう」と声をかけた。その後自分で出来るようなので見守る。やがて最後まで隠れている子どもを見つけることができた。友達から「すごいやん」と声をかけられる。

10/9 【缶けりのきわどい場面 子どもの姿】

今まで鬼と蹴る方が思いを主張してトラブルになりがちな場面だったが、鬼の主張をみんなが受け入れる。

【ケイドロ 自分たちで鬼決めをして遊びを進めていく。】

10月中旬

【子どもの姿】

・特定の友達だけではなく、クラスの友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じている。缶けりなどでは、ずっと鬼が続いた子に「大丈夫？鬼変わる？」と優しく声をかけてくれる。



【教師の援助】

・友達同士でルールを確認したり、新しいルールを考えたり決めたりしている時には教師は状況に合わせて見守ったり、仲間に入って一緒に考えたりしていく。

・遊びながら一緒に遊んでいる友達みんなにルールが共通になっていくように、友達同士で話すきっかけを作ったり友達の話を聞けるよう、声をかけたりしていくようにする。



【缶けりの隠れ方・蹴り方が上手くなる。子どもの姿・10月下旬から11月】

・缶けりが盛り上がっている。隠れ方も缶を蹴ることも子ども達が工夫してやっている様を感じる。教師が鬼になると全員見つけることは難しくなっているほど。でも、一人の子の鬼が続くと「大丈夫？交代？」と優しく声をかけることも多くある。仲間が缶を蹴ると、子ども同士でハイタッチして喜ぶこともある

【協同製作「恐竜博物館」 子どもの姿10月下旬】

恐竜博物館を開くという同じ目的に向かって協同製作が始まる。協力や製作に関する会話ややり取りは見られない。

10月下旬

【環境構成・手つなぎ鬼ごっこ】

遊びを自分たちで進めていくようになってきた時期。手つなぎ鬼は鬼が手をつないでいくので、相手と調子を合わせて鬼をすることが求められる。遊びを自分たちで進めるようになってきたところだったので、相手のことを考えながら楽しめると思いクラス活動で取り入れる。

【子どもの姿】

- ・手つなぎ鬼ごっこで鬼が増えて4人になり、2人で分かれるとき自然の流れで近くの友達と手をつないで分かれることが多かった。(例年、手つなぎ鬼では、つなぎたい子がいてその子を狙い、その子と手をつなぐため、ジャンケンまでしていたが、今年は「誰かと手をつなぎたい」というより「手つなぎ鬼の楽しさ」が目的で遊んでいる)
- ・遊びの時間は缶けりと手つなぎ鬼ごっこで盛り上がっている。



11月《箱積みタワー》協働的活動

友達と思いや考えを出し合いながら、共通の目的に向かって友達と一緒にやろうとすることをねらいとして取り組みます。共通の目的に向かって友達と一緒に取り組むことを大事にしたいので、以下、3つのことを意識して取り組みました。

- ・朝一番に活動として取り組む。(グループで取り組む時間を確保するため)
- ・時間がきたら、自由にして主体的に取り組めるようにする。
- ・必要な時はグループ全員を集めて、話し合いをする時間を作る。(グループで思い描いたことが共有できるように)

3つのグループに分けて取り組んだのですが、それぞれの作戦がありその作戦に向かって協力したり工夫する姿が見られた活動でした。

2日間で取り組んだ活動で、1日目に練習試合として1回目の競争をしました。そして2日目に本番という形で競争したのですが、どのチームも1日目より2日目の方が高いタワーを積むことができました。

勝って嬉しい、負けて悔しいという気持ちもあったようだが、どのチームも練習試合した時よりも高くなっていて、チームの仲間と思いや考えを出し合いながら協力したり、工夫したりした成果が出たのだと感じます。



12/1【環境構成】 行事の劇作りをするにあたって、友達との関わりがある遊びをクラス活動にとり入れた。

12/9【子どもの姿】 子ども達で遊びを進める。話し合いを進める役割が数人いる。

12月《恐竜作り》協同製作

行事「ごっこランド」の劇で使う恐竜作りをしました。「友達と思いや考えを出し合いながら、作り上げた達成感を感じる」というねらいを立てました。教師は恐竜を作るための大まかな材料だけを準備し、どのようにして作っていくかは、子ども達同士で考え話し合いながら進めてもらおうと計画しました。作る部分や作り方を子ども達に意見を出してもらい、劇のグループでそれぞれのパーツを作ることに決まります。「どんなパーツが必要か」「役割分担はどうするか」と次々に子ども達で話し合いがなされ、進んでいきます。それから、「ここ、こうしよう」とグループで協力する姿が見られました。また、違うグループの子が「ここはこうしたほうがいいよ」などとアドバイスをくれたりする姿もありました。グループだけでなく、クラス全体で作り上げる活動だったように感じます。

2月～3月 《ひな人形協同製作》



年長組 2週間にわたる協働的活動 身近な廃材を使って作るひな人形製作

子ども達は、1学期2学期と遊びや活動の中で友達と一緒に楽しいという気持ちや、思いや考えがぶつかり合っとうまうかない経験をしてきました。その中で、お互いの気持ちを伝え合いながら、自分の気持ちを調整して相手の気持ちに寄り添ったり、一緒に同じ目的を持って取り組む協働的な姿が見られるようになってきます。その協働的な態度をさらに高めていくために毎年3学期にひな人形製作を指導計画に取り入れています。

この活動で目指す子ども像を『共通の目的に向かって友達と一緒に取り組む』とし、協力すること、見通しを持って計画して生活すること、思いや考えを友達に伝えることをねらいにしました。

活動内容は、幼稚園にある7段のひな人形と同じように子ども達が、新聞・おりがみ・毛糸・布と身近な材料を使って作り上げていきます。そして出来上がったものは既存の人形と交換していき7段のひな人形を完成させるというものです。

またひな祭り集会在園の行事としてあるのでそれまでに完成させることを目標にします。2週間の日をまたぐ継続した活動で、朝のお集まり、弁当、帰りのお集まり以外、子ども達を基本的に自由にし、遊んだり製作したりすることを自分達で決めて見通しを持ち生活します。

過去の取り組みから【反省や考察】

ひな人形製作は2013年2月から取り組み始めた協働製作です。過去の活動の反省や考察を基にその年の活動計画を立てています。以下、反省や考察から、計画を見直したものをまとめました。

・子ども一人一人が具体的な目標を立てる。

例年、朝のお集まりで子ども一人一人に「頑張りたいこと」を考える時間を作り、みんなに聞いてもらうことで製作の意欲につながれるようにしていた。その時は「おひな様を作るのを頑張る」等と言った、抽象的に目標を立てていた。そのため、目標が大まかすぎて何を頑張ればいいのか分からない状況もあったようだった。

そこで、具体的な目標を立てることで、自分が今日頑張ることを明確にし、主体的に製作に取り組めるようにした。今までの抽象的な目標から「三人官女の着物と髪の毛を作る」等と具体的に目標を立てることで、今自分がすべきことが分かり製作に夢中になって取り組んでいたように思う。

・時間の使い方を工夫する。

これまで作り終わった人形や道具をみんなの前でひな壇に飾る時間は、帰りのお集まりの時間にしていた。飾ったあとは自然と「私も（僕も）頑張ろう」という気持ちになっていたのだが、帰る時間になり、作るのは次の日に持ち越されてしまっていた。そして、次の日幼稚園に来る時にはその時の意欲が薄くなっていてなかなか、前日のモチベーションにならないことも多かった。

そこで、朝のお集まりの時間に、交換する場を設けた。そうすることで、「作りたい、頑張ろう」という高い意欲があるので、製作に夢中になる姿がたくさん見られた。

・教師の子ども同士をつなげる関わり。

教師が、友達と友達を繋げようという意識が強すぎたため、子どもの「困ったなあ」という思いを教師が先走り「友達に聞いてみたら？」などと声かけをしすぎていた。そのた

め、子ども達の中で、本当に困っているから聞こうという主体的な姿ではなく「先生が言ったから聞いてみよう」という受け身の姿も見られた。子ども達が受け身の姿勢だったことで、困ったことを聞いて友達が説明しても、そっぽを向いていたりと自分のこととして話を聞いているという姿が見られなかった。

そこで、まず教師が「何か困ってる？」と聞き方を変え、子どもの「困っていること」を引き出し、そこから友達に繋げることを意識した。そうすることで、自分から友達に聞いてみようという主体性が出るようになったり、話を聞こうという必要性を感じていたように思う。

ひな人形製作実践記録

2016年2月から3月

◎友達と協力しながら、共通の目的に向かって取り組み、やり遂げる達成感を味わう

→出来上がった後に、みんなで喜ぶ瞬間を作りたい！！

◎・友達と思いや考えを出し合いながら取り組んだり、経験したことを様々な方法で取り入れながら、できた満足感や達成感を持つ。

2/15 (月) 導入 興味関心

【ねらい】

- ・ひな人形・ひな祭りに興味を持てるように由来・人形を知る
- ・おひな様について知る機会を得るとともに、友達と協力して遊ぶ楽しさを味わう。

〈内容〉

- ・ひな人形の名前や由来を話す。
- ・おひな様カードを1人ずつ引いて、カードの絵柄に合わせて並び、おひな様を完成させるゲームをする。
- ・○×ゲームをする。

【留意点・環境構成】

- ・本物のおひな様を見ながら、ひな人形の配列、役割、由来などを確認する。

・本物のひな人形を手にとってみたり、着物の色や顔の様子などみんなで共有する時間をとる→興味を持つことと、製作をするときにどんな材料が必要か考えるきっかけになるといい。

(ゲーム)

- ・子ども達が混乱しないように、おひな様カードは幼稚園のひな人形の写真を使う。
- ・クラス全員で協力して完成できるように、みんなで相談できるように声かけしていく。
- ・ゲームはクラス全体で協力する経験ができるように、最後は全員で全部の人形を配置して完成できるようにする。
- ・協力するとできるということが実感できるように、ゲームのあとに振り返りをする時間を作る。

【子どもの様子】

- ・部屋に置いていたひな人形の並び替え遊びは興味を持って遊ぶ。朝の時点で何人かの子どもは5人囃子までの並び方を覚えていた。
- ・ひな人形の名前や仕事の話を見ている時はとても興味を持って聞いてくれる。
- ・実際に触って観察する時は、ほとんどの子が剣に興味を持つ。また、タンスが本当に引き出しになっている事や鏡が開くことなど実際に使えるようになってきている事に驚いていた。

・お内裏様の背中白い着物を見て「これなんだろう」などと、どんな役割を果たしているのか気になる子もいた。

・花を作りたい、ぼんぼりを作りたいなどと人形より物を作りたいと話す子が多かった。

・長い時間、興味を持って色々なものを触って見ていた。

(ゲーム)

- ・朝、並び替え遊びをしていた子が中心になって、「これは1番(目)」と教えあう姿がたくさん見られた。
- ・分からない子もいて、聞ける子は自分から「これどこ？」と聞いていた。聞けない子はどこ?どこ?と戸惑っていた。それに気づいた子が「ここだよ」と教えてくれていた。

【考察・反省】

・ゲームでは、時間を競う競争にし、最後に出来上がったらみんなで「できた」と合図をすることでチーム意識が高まり協力する姿がいつもより多かったように感じる。

→朝、常設の並び替え遊びを出していたことも良かった。

・ゲームをする中で、子ども達も人形の名前や並び方など自然と覚えていたように思う。

・今日は人形の高さなどに気づく子がいなかったのので、明日の活動で気づけるような声かけを意識してしていきたいと思う。

2/16 (火) 導入 平面のひな人形作り



【ねらい】

・ひな人形をよく観察し、親しみを持って絵にする。

・平面のひな人形を完成させた達成感や喜びを感じる。

・大きさ、高さを意識して表現する。

〈内容〉

・ひな人形をよく見て絵に描く。それを絵に描いたひな壇に貼っていき平面のひな人形を作る。

【留意点・環境構成】

・ 同じものを描いて、「あっ！」と気づく瞬間を作りたい→今日の活動では同じものでも貼って完成させるが、製作する時にどうすれば良いか、考えるきっかけとなればと思う。言葉ではっきり、同じものを描かないようにというのではなく「(人形の数も)本物と同じよ

うに作って欲しい」と伝え、自分たちで気づきあいながら取り組めるようにする。

・ 紙の大きさに気づき、実物の大きさと対比しながら描けるようにして欲しい→製作する時の大きさの感覚の土台になれば良い。立っている人、座っている人の高さにも気づくようにしたい。異なった大きさの紙を数種類用意しておく。

・ 途中困ったことがあった時は、みんなで考える場を作るようにする。

・ 途中に1度、みんなで絵を見る時間を作り「後何が足りないか」確認する時間を作る。

→ 同じものが何個も出てきて誰かが「ん？」という疑問が出るといい。その時みんなが貼ったを絵を見るきっかけとしたい。

・ 出来上がった時の、充実感を感じられるように声かけ、子どもと一緒に喜びを共感するようにする。

・ 子どもが「○○作るね」と言ったらそれを広げていくようにする

・ **全ては提案はしない！！確認はする！！**

☆出来上がった時に、全員で見る時間を作り、人形製作をする時に、重ならないようにするにはどうすれば良いか考えてみる。

☆子ども達同士のやりとり、作っているときの子どもの位置(役割)を中心に見ていく。また、友達に自分の考えや思いをしっかりと伝えられているか、受け入れられているか見る。

☆製作に取りかかる中で、どんな材料が必要になるか考える場を作り、自分たちで必要なものを準備できるようにもしたい。(意欲につなげる)

【子どもの様子】

・ 作り始める前に、子どもが「みんながお内裏様を描きたいって言ったらどうするの？」

「誰が何を描くってどう決めるの？」と気になっていることを聞いてくる。教師が「どうすればいいと思う？」と聞くと「一緒に描けばいい」と子どもが提案する。

・大きさのことを意識して欲しかったので、話しをする。人形の大きさと紙の大きさを比べながら描く姿が多かった。

・1体の人形を2人が描くことが多かった。役割分担したりするところがあれば、一人が黙々と描き進めるところもあった。

・友達と一緒にという思いが強く感じられた。

・分からない事があると、教師に聞くことが多い。教師が「友達に聞いてみるといいかも」と話すとは聞いていそうな友達に聞きに行く。

・途中で、描いているものが友達と重ならないようにする方法を1人の子が発見して話しているが周りに伝わらない。そこで、教師がみんなを集めて話してもらう。すると「じゃ、この描いてる絵を見るのもいいんじゃない」と違う案を他の子が提案するが、「でも、もし描いてる途中だったら分かんないじゃん」と話し、絵に描いた人形や道具は「終わったコーナー」に置くことにする。その後、雛壇を見て残りの数が分かるようになったので「あと何個」と見通しを持ちながら取り組んでいた。

・絵がとても丁寧でよく観察して描いていた。模様などもしっかり表現されていた。

・出来上がりはとても満足そうで、友達の絵に近寄って「すごいね」と褒めたりしながら見ていた。

・感想は「楽しかった」「大変だった」「疲れた」と言った。



【考察・反省】

・みんなで作り上げる意識が強かったように思う。1つの人形を友達と描くことは、これまでほとんど見られなかった。でも今回は友

達と一緒に、という感覚が強かったのか、または一人では少し自信がなかったのか、2人で描くことが多かった。その中でも役割分担の姿も見られたので、協力の意識が強かったようにも思える。

・同じものを描いて、「あっ！」と気づく瞬間は描く前から子ども達の中にあり、それを共有して描き始めたので、重ならなかった。

・全体的に、相手に伝える、相手の話を聴くことに意識が向いていないように思う。明日からそこを意識して関わっていく。

2/17 (水) 製作開始

【ねらい】

・自分なりの目標を持って、ひな人形を作ることを楽しむ。

・自分の思いや考えを相手に伝えようと気持ちを持って話す。そして、自分に語られている言葉として聞く。

【内容】

・基本の作り方（人形）を話して、役割分担をして作っていく。

【留意点・環境構成】

・イメージしやすいように、材料（廃材、新聞紙、白紙、花紙、ストロー、折り紙、千代紙、毛糸など）を用意しておく。

・どんな材料を使って作り始めればいいのか考えて取り組めるように、1度どんな材料があるのかみんなを確認する時間を作る。

・子どものアイディアや伝えたいことを逃さず、広げられるようにする。

・朝のお集まりで「頑張りたいこと」を考える時間を作り、みんなに聞いてもらうことで製作の意欲につなげられるようにする。

・問題が起きたら、みんなで解決できるように話し合いの場を作る。

・友達の姿に目がいくように声をかける。

・友達と友達を繋げられるように声をかける。
「～で困ってるんだけど、一緒に考えてくれ

る？」「〇〇が得意だから聞いてみるといいかもね」等。

・友達と一緒に作ることを楽しめるように雰囲気を作ったり(可能性の提案等)、教師も援助しながら一緒に作ることを楽しむ。

・困ったときに、「どうしたらいいかな？」と投げかけ考えることができるようにし、子どものアイデアを大切にしたい。できる限り、**提案はしない！！**

・帰りに今日1日の振り返りをして、作っているときの困った点や良かったことを、クラス全員で共有していく時間を作る。

・一人ひとりが工夫して頑張っている姿を認め、クラスに伝えたりしながら自信を持って活動に参加できるようにする。

【子どもの様子】

・作りたいものが同じ人は一緒に集まって作り始める。

・「髪の毛作って」などと役割分担をしながら作っている。何をしたいかわからない様子でその場にいることもある。

・一緒に作っている仲間同士で、「こうしようと思うんだけど」「これ紙で作ると箱で作るとどっちがいいと思う？」と相談しながら作っている。

・分からないことがあると教師に聞くことが多いが、「お友達に聞いてみるといいアイデアがあるかもよ」などと声をかけると、友達に聞いて作ったりする。

・困っている友達がいてずっと悩んでいるので教師が「～で困ってるの？」と聞くとそれを聞いていた周りの友達が「それはね～」と教えてくれたりする。

・聞いている方は、時々違うことに気をとられて聞いていないこともある。そして、分かっているが「分かった」ということもある。

・友達が作ったものを見て「本物と間違うくらい似てる」と声をかけたりしているので、友達の作ったものにも興味を持って見ている。

・とても集中して取り組んでいてほとんどの子がずっと作り続けていた。途中遊びに出かけた子も戻ってきて作り始める姿があった。

・作り続けることで、作る楽しさを感じているようだった。「なんだか楽しくなってきた」と話す。また作ることの大変さも感じていた。

・帰りの振り返りでは、「(友達の名前)、剣作るのが頑張ってたじゃん」などと友達の頑張りを何度も口にしていた。

・本物通りに忠実に作っている。大きさを合わせてみたり、本物の剣などを厚紙に合わせて切っていたりする。

【考察・反省】

・教えてもらう時に、聞く側がしっかり聞いていない様子が見られるので、聞く態勢を整えられるように意識して声をかけていく。

・帰りの振り返りの時間を、もっと有効に活用していく。良さを伝えたり、困ったことを考える時間を作ったりしていく。

・教えてよかった、教えてもらえて嬉しかったなどの気持ちをもっと感じられるようにすることが必要だと思う。「教えてくれてありがとう」「教えてくれたから上手く作れたね」など共感する。

2/18 (木) 製作二日目

【ねらい】

・自分達で生活の見通しを立てながら、計画して取り組む。

【子どもの様子】

・登園した後に思い出したように作り出す。それを見た友達も「作ろう」と言って作り出す姿もある。

・今日は卒園写真撮影が終わってから誰も作り出す子はいなかった。教師が「今日は誰も作ってないね」「作らないのかな？」と話しかけても「知らない」「…」といった様子で遊び続ける。

・同じ人形を一緒に作っているグループでは一緒に作るのではなく、別々に作り上げていくことが多い。「一緒に作らなくていいの？」と聞くと「いい。一人で作れるから」という。・同じ人形を作っている友達に「一緒に作るう」と誘って作り始める子もいる。

【考察・反省】

・まだ、自分たちで計画を立てることはやり方が分からないのかもしれない。具体的に計画の立て方を話すといいのか！？

・自分たちが三日までに作り上げることは分かっているが、主体的に取り組めていないと思う。

→・先の見通しを持つことができていない。

・自分のすべきこと（目標）が分かっていない

・同じ人形を作っているグループが同じ目的に向かって進めていないように感じる。

2/19（金）製作三日目

【留意点・環境構成】

・まだ、製作に意欲的でない子（何をしたらいいか分からない、作り方が分からない）もいるので、その子には得意な子や意欲的な子にお願いしてサポート役として手伝ってもらえるように声をかける→友達を手伝う経験をすることで、一緒に取り組むことの楽しさを実感し自ら協力できるような姿になってほしい。

・今、どれだけ作業が進んでいるのか目で見て確認する時間を作り先の見通しをもって取り組めるようになってほしい。

【子どもの様子】

・製作に意欲的な子は、自分から頑張りたいことを見つけて発表する。

・朝のお集まりが終わると、製作に全員が取りかかる。

・4人で同じ人形を作っている子たち（おひな様）は、いつも同じ子が作り、他の子は何

をしたらよいかかわからない様子が見られる。

・本物の人形、道具をよく見て作り込んでいく。人形が立たない時は別に支えを作って立たせるように作っていく。（右大臣）のグループは相談しながら作っていく姿が見られる。

・少しずつ出来上がってきたことが嬉しくて、自ら製作に向かう姿も見られてきた。

・1つの人形が作り終わると、「もう終わった」という言葉が聞こえる。

・製作をしていない友達に「作らないの？」と声をかける子もいるが、声をかけられたほうは何も答えず逃げるようになくなる。

【考察・反省】

・これまで、作るきっかけが教師になってしまっているが、少しずつ自分達から動いてきたように思う。出来上がりも見えてきて、意欲が高まってきているように思う。

その反面、意欲ない子は作っていても集中していなかったり、自分から作り出そうとする姿は見られない。

・次から出来上がった人形を、みんなの前で交換する場を作り、作りたいと意欲を持てるようにする。

2/22（月）間に合わないんじゃない？

【子どもの様子】

・登園してきて作る子（I、R）は、「間に合わないんじゃない？」「みんな作らないのかな？」と気にして、遊んでいる友達に「作らないの？」と声をかける。

・朝、遊戯室でできたものを交換する時間をとり、みんなで交換する場を見る。交換し終わったあと、あとどれだけ残っているのか数える子が多かった。

・友達が交換すると、拍手が起こっていた。

・交換し終わったひな壇を見て「まだまだだね」「間に合うかな」という言葉が出てきた。

・お集まりが終わると、みんな製作を始めお弁当までずっと作り続ける。

・友達が「(ぼんぼりが) たたな〜い」「困った〜」という、その声に反応して「どうしたの?」「〜すればいいんだよ」と声をかけてくれる。

・友達が「〜すればいいんだよ」と教えてくれているが、教えてもらっている方は聞いていないこともある。言っている方も聞いていないことを気にしていない様子。

・ひな壇に飾ったのを見たので、早く自分も飾りたいという気持ちを持っていた。

◎「Sちゃんが困ってまーす」というクラスの子の声にY君が自分の作業を止めて離れたSちゃんのところへやってくる。作り方を教える。



【考察・反省】

・Y君の事。(P4)缶けりに参加した事、鬼をやりきった事、友達の中で自分なりの力を出した自信から見られた姿に思えた。

・出来たひな人形を交換して目で見たことで、あとどれくらいなど見通しを持つことができるようになっていた。

・交換する時に、頑張ったところ難しかったところなど聞くことで、友達の頑張りをより知る時間になるか!?

・聞くこと、相手にしっかり伝えようと思っ
て伝えることを意識する。

・朝から交換するところを見ると、その後みんな製作に向かうことが多い。しかし、その姿をすべて自主的な姿と捉えると疑問にも感じる。自主的に取り組むことはどういうことなのか、今後考えていきたい。

2/23 (火) 計画と相談の必要性

【ねらい】

・みんなで作るひな人形という意識を持ち、友達と協力しながら取り組む

【留意点・環境構成】

・教えてよかった、教えてもらえて嬉しかったなどの気持ちをもっと感じられるようにすることが必要だと思う。「教えてくれてありがとう」「教えてくれたから上手く作れたね」など共感する。

【子どもの様子】

・作る子は意欲的に作り始めるが、気持ちが向いていない子はほとんど遊びに夢中。

・友達が「作らないの?」と声をかけると「作るのかな」と戻ってくる子もいるが、その声にも反応しないで遊んでいる子もいる。

・友達が困っていることに気づくと「どうしたの?」と声をかけたり教えてくれたりする。

・自分が作っていたものが作り終わると、新しいものを作らず友達の手伝いをしてくれる。

・話し合いでは「間に合わないかも」「みんな
で力を合わせて作る」と話すが、実際作るとなると遊びたい気持ちが大きく現れる。

・遊びに出て行ったが、少しして戻ってくる。そして、作ろうと言って作り出す。

・遊んでいる友達を見て「作らないのかな」と気にしている様子。

【考察・反省】

・全体的に意欲が薄くなってきている。頑張っている子は頑張っているが気持ちが向いていない子は遊びに夢中になっている。

これまで、作る時は遊びも忘れて作っていたが、そのことで遊び足りない気持ちが大きく現れてしまっているのかと思う。→見通しを持って自分たちで計画を立てて取り組む大切さを感じられるといいと思う。

・すぐに友達に聞いてみることを勧めるのではなく、まず自分んでいろいろ試しながらやってみることを大切にする。

そこで本当に困ったと悩んでいることで、自分から友達に相談する必要性を感じられるのだと思う。そして次、友達が困っている時に自ら手を差し伸べられるようになってほしい。

・今日の振り返りの時間で「みんなの力を合わせて作って、出来上がった時に嬉しい！やったー」と思えるようになってほしいということ伝える。

「頑張る」という言葉をよく使うので、「どうということが頑張っていることだと思うか」を聞いてみる。

子ども達から出た言葉。

◎みんなで力を合わせて作ること。

◎遊ばずに作ること。

2/24 (水) 計画の立て方

【ねらい】

・自分達で生活の見通しを立てながら、計画して取り組む。

・一人一人が自分の力を発揮しやり遂げる充実感を味わう。

【留意点・環境構成】

・具体的に計画の立て方をみんなで話し合い、自分で計画を立てる時間を作る。(時計だけにこだわらない)

・製作の中で困ったことがあるときには、まず何に困っているか確認しいろいろ試行錯誤できるように一緒に考えていく。

・子ども達が気づいたこと、いいところ、困ったことを子ども同士で話し合う機会を持ち、同じ目標に向かって取り組めるようにする。

・気持ちの向いていない子に、何を頑張りたいか個人的に聞き一つ一つどんな風に作っていくのか一緒に考えながら、作ることを楽しみに取り組めるようにする。子どものアイディアに否定的な言葉かけはしない！！
やってみてできたという実感を感じられるようにする。

・一人ひとりが工夫して頑張っている姿を認め、クラスに伝えたりしながら自信を持って活動に参加できるようにする。

【子どもの様子】

・少し作って「頑張った」と遊びだしている子が多い。計画を一人一人が立てるが遊びだす人が増えてくるとそれにつられて一緒に遊びだす。一度遊びだすと自分から製作に向かうことは難しい。

・周りの友達が遊んでいるのを見ると「ちょっと遊んでくる」と言って遊びに出かけている。

・作っている時は、お互いにこうしたい、こうすればいいんだよと協力する姿が見られている。

・製作に向かない子に教師が頑張っている姿を認め関わりながら作ると製作に少しずつつくようになっていく。

【考察・反省】

・もっと意欲的に取り組めるようにするための関わりが必要。

製作が楽しいものなんだという気持ち、子ども達の中で「こうしたい」という願いが出てくるようになると思う。

◎出来上がったものをひな壇に飾っていく→頑張ったところ、難しかった点を聞いて友達の頑張りを認めていく

◎製作の中で困ったこと、悩んでいるところをみんなで解決して、みんなで1つのことを成し遂げたという実感をたくさん感じられるようにする。

・子どものアイディア、頑張っているところを認める声かけを意識してたくさんかけるようにする。

2/25 (木) 計画を立てて動く

【子どもの様子】

・人形交換では友達の作ったものをよく見せてくれた。そして、拍手して出来上がりを一緒に喜んでくれた。

・自分のものを発表する時は得意そうに見せていた。ひな壇に置くことを喜んでくれた。

・ひな壇に出来上がったものを交換していくと「どんどん埋まってきたね」「出来上がってきたね」と嬉しそうに話す。

・昨日自分たちで計画を立てる経験をしたので、時間を決めて作ったり遊びに行ったりする。時間になると戻ってきて作ったり、作って遊びに行ったりする。

・友達のことを気にする様子が見られ「〇は作らないのかなあ」「ずっと遊んでるね」と話している。そして「作らないの?」「遊んでばかりいないで作ってね」と呼びに行く。

・教える時に、初め黙って代わりに作ってあげるだけだったが次第に「こうするんだよ」「丸くするの」と言葉で教えるようになる。
 ・一緒に作る時に友達が作っているものを見て、「帽子つくろう」と考えて作ったり「髪の毛作って」などと役割分担しながら作る。
 ・ストローの先のスプーンの部分を手に見立てて5個の切り込みを入れて工夫する。また、その手に笛をはさめるようにする。

【考察・反省】

・頑張りを認める声かけを意識した。それはとても良かったと思う。

・昨日、計画を一緒に考えたことが子どもたちの中に意識され、自分たちで計画して過ごしていたことはすごいと思った。

・完成のイメージを持てたことでやる気も出てきたように感じる。

・ひな人形が全て作っている途中なため、何もすることがないと取り組めない子も出てくると思うので、そういう人はどうすればいいかみんなで作る時間を作るようにする。

2/26 (金) つながりはじめる

【ねらい】

・友達と共通の目的に向かって責任を持って取り組み、達成感・充実感を味わう

・目標を立て、それに向かって取り組もうとする。



【留意点・環境構成】

・「もう少しで完成」という気持ちを盛り上げ、意欲的に取り組めるようにする。

・一人ひとりが工夫して頑張っている姿を認め、クラスに伝えたりしながら自信を持って活動に参加できるようにする。

・あと何が必要で何をしなければいけないか考えて動けるようにする。

・子ども達が気づいたこと、いいところ、困ったことを子ども同士で話し合う機会を持ち、同じ目標に向かって取り組めるようにする。



【子どもの様子】

・自分たちで計画を立てて取り組む姿がある。今までは友達が遊びだしたら一緒に遊び出すことが多く、誰が作って誰が遊んでいるという意識がなかったが、今は作っている子は遊んでいる子の姿が見え、「作ろう」と呼びかけたり、遊んでいる子の中には作っている友達が気になりお遊戯室に戻ってきたりする。

・友達同士で「作ろう」と誘いながら作り始めることが多くなっている。

・もう作るものがないので、今作っているものが作り終わってしまうと、まだ終わっていない子の手伝いを進んでしてくれる。

・できたものを友達に披露するとき、友達の作ったものに興味を持ち「ちゃんと見せて」

「どうやって作ったの？」と質問したりする。

【考察・反省】

- ・遊びを我慢して製作しなければならないという姿は見られない。遊びも製作も楽しんでいるように思う。
- ・月曜日には出来上がりそうな気もするので、全員で出来上がりを喜べるように製作の時間を決めて取り組むようにしたい。そこで、ほとんど出来上がってきているので作ったものの最終チェックや出来ていない物を確認し、完成の瞬間をみんなで共有できるようにする。

2/29 (月) 出来たあ————!



【ねらい】

- ・友達と共通の目的に向かって責任を持って取り組み、達成感・充実感を味わう
- ・みんなで作るひな人形という意識を持ち、友達と協力しながら取り組む。

【内容】

- ・みんなで作る時間を持ち、最後の出来上がりを楽しみに待つ

【留意点・環境構成】

- ・ひな人形が完成したら、とても頑張った事を伝え、一緒に喜ぶ。

【子どもの様子】

- ・まだ出来上がっていない子は、遊びの時間を使って作っていた→自分たちの作っているものができたら完成することが分かり責任を持って取り組んでいたように感じる。

・手伝うときにみんなで話し合いながら進めていた。「ここに支えがあればいいんじゃない?」「じゃ、ストロー持ってくるね」など。

・前日、教えてあげた子がまた聞きに来た時、前日は言葉のやりとりまで時間がかかったが、今回はすぐ言葉のやり取りで教え始めた。

・出来たものがすぐ完成ではなく、「本当にこれでいいかな」「ここももっとこうした方が良くない?」などと最後の最後までこだわって作っていた。

・今日は時間を決めて取り組んでいたが、子ども達から手伝いに来てくれみんなで作る時間にはすでに完成していた。

・ひな人形が出来上がると、とても喜んでいました。友達と抱き合ったりハイタッチして達成感を感じていた。

【今年度の考察・反省】

・製作も遊びの一部として取り組んでいる姿だった。それがこれまでと違うところで、遊ぶことも製作することも楽しんでいたことが良かった。

・今回は製作に取り組む姿がとても極端だったような気がする。初めの頃、作る時は遊ばずにずっと作り続け、遊ぶ時はずっと遊び続けるといった様子だった。そこで、計画を立てて、取り組む必要性が感じられるのではないかと、子ども達と一緒に計画を立てることについて話し合う。

その時は少し難しかったように思ったが、その後から自分たちで時間を決めたり作り終わってから遊ぼうと決めたり計画を立てて取り組んでいたように思う。

→今回は、全員で時間を決めて取り組む活動にしたのは製作初日だけだった。

計画を立てることを意識するために、何度か時間を決めながら取り組むことが必要かもしれないと思った。教師の言葉だけでなく、子ども達が体験することで計画を立てる必要

性をもう少し早く実感出来ていたのではないかと思う。

- ・子ども達の協力する姿や相談しながら進める姿はとても良かったと思う。それまでの友達との関係がより深まっていたのだと思う。
- ・毎年そうだが、出来上がりがイメージできるようにになると主体的に取り組む姿へと変わっていく。
- ・導入の時点で子ども達がとても興味を持って取り組んでいた。その意欲が製作意欲にも繋がったように思う。

【後記】

子どもの育ちを丁寧に見ていくと、「いろんな仲間と関われる力があること」と、「いろんな仲間と実際に深く関わること」は違うことのように感じます。

「関われる力」は「遊び仲間」の中で養われ、子どもの内側で成熟していくもの。「深く関わる力」は協働的活動などで実際に発揮して、経験することで、身につけていくもの。前者が「環境」、後者が「指導計画」と言ったら言い過ぎと思いますが、どちらも適切な教師の関わりは不可欠だと思います。「気の合う友達」と「遊び仲間」との間には、少し段差があるように感じます。自然に育っていくものではなく、そこを乗り越えるには、長い年月をかけた遊びと、幼稚園教諭の適切な関わりが必要です。

「気の合う友達」という濃密な人間関係だけの世界だと、グループや友達から離れて違う遊びをすることに不安が生まれるかもしれません。しかし、ルールのある集団遊びの「遊び仲間」が形成されるとそういう不安はあまり問題にならないように感じます。「遊び仲間」との遊びに参加するか、しないかは個人の自由という雰囲気を感じられます。仲良しの「気の合う友達」はそれぞれの子どもにいて、それでも手つなぎ鬼等では、自然に違うグループになったり、違う遊びをする姿も見られます。グループや人への執着または依存が強いと、排他的な行動が懸念されます。しかし、遊びの楽しさが目的で集まれる「遊び仲間」が子ども達の周りに形成されるとグループや人への執

着を感じないのです。ここに「いじめ」という子どもの社会問題に対するヒントがあるようにも思えるのです。

自分に対する自信と友達に対する信頼という個々の育ちが、「遊び」のなかで様々な出来事に出会い、向き合わせ、長い時間をかけて「遊び仲間」が形成されます。それは「社会情動的スキル」の育ちと重なります。

「遊び仲間」は遊びの楽しさで結ばれます。楽しさは「ルール」で決まります。ルールは目に見えないものですから、頭の中でみんなで描き、共通理解する必要があります。そのためには知性・想像力が必要であり、意欲はもちろんのこと、そこから・社会性・忍耐力・自己抑制・課題を解決する力が育ち、それらの総合的な力が自律性になると考えています。

遊び仲間は昔、缶けりなどの伝承遊びによって、地域社会で築かれていたと思いますが、現代は遊ぶ場所や時間もなく「遊び仲間」が生まれにくい状況です。だからこそ幼児期に「遊び仲間」を作る経験をしておかなければならないと思うのです。

戸外でのルールのある集団遊びは、子どもから子どもへ代々受け継がれていきます。その遊びの文化を大切にしていきたいと思うのです。

過去の取組の映像

iTunes U 荒尾第一幼稚園 「幼児教育・保育の実践」

- ・5歳児クラス協働的活動ひな人形製作
(2013年2月の活動)

YouTube 荒尾第一幼稚園チャンネル

- 「活動記録」再生リスト
ひな人形製作(2014年2月の活動)(2015年2月の活動)

- 人形劇映画本編
・人形劇映画「たなばたこびとのおはなし」